

令和8年度 第69回
全国肢体不自由特別支援学校
PTA連合会総会および
PTA・校長会合同研究大会
『広島大会』
参加報告書

東京都立小平特別支援学校



校長先生よりご挨拶

8月20日・21日の二日間、全肢P連広島大会に参加させていただきました。

「広島風の感じてみんさい 結びつく心が平和をつくるけえ」のテーマの下、全国のPTA関係者や学校関係者が集い、子供たちのよりよい成長と生活を支えるための思いを共有しました。戦後81年を迎えた広島地で、平和の尊さと人と人とのつながりの大切さを改めて実感するとともに、全国の仲間との交流から多くの学びと励ましをいただく貴重な機会となりました。参加を支えてくださった本校PTAの皆様、心より御礼申し上げます。



第1分科会 【学校】

校長 鈴木 愛





第1分科会【学校】

発表校：茨城県立下妻特別支援学校

発表テーマ：「PTAの新しいカタチ『しもとくファンクラブ』

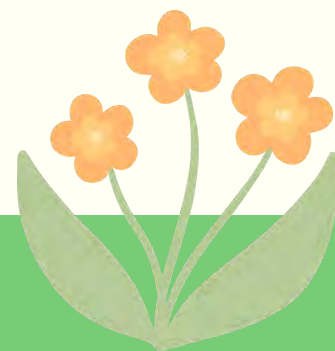
～『やらのきゃ』を『やりたい！』に～」

第1分科会「学校」では、「子どもたちの学校教育を支え、社会自立を育むため、PTAは学校との連携をどのように進めていくか」を研究協議題として協議が行われました。発表校の茨城県立下妻特別支援学校からは、「PTAの新しいカタチ『しもとくファンクラブ』～『やらのきゃ』を『やりたい！』に～」をテーマにした実践報告がありました。同校では、保護者の負担軽減とつながりの維持を両立させるため、会長制を共同リーダー制へ変更し、総会を「ファンミーティング」とするなど、時代や保護者の実情に合わせたPTA組織の再構築に取り組んでいました。

発表後のグループディスカッションでは、各校のPTA活動の現状や課題について活発な情報交換が行われました。多くの学校から、PTA役員のなり手不足や、一部の保護者に負担が集中している状況が報告され、全国的な共通課題であることを改めて認識しました。一方で、下妻特別支援学校の取組については、「自校でも参考にしたい」「元気をもらった」「前向きな気持ちになった」などの感想が多く聞かれ、参加者の共感を集めていました。

また、助言者である広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部部長の篠原浩美先生からは、大阪教育大学附属天王寺小学校の実践が紹介されました。コロナ禍における除菌・消毒活動を保護者が担ったことをきっかけに、保護者が学校へ日常的に関わるようになり、様々な課題や試行錯誤を経ながら、学校と保護者がともに学校文化を創り上げていった事例でした。学校と保護者がパートナーとして信頼関係を築き、子どもたちの成長を支える姿は大変印象的でした。

今回の分科会を通して、PTA活動は単なる組織運営ではなく、保護者同士や学校とのつながりを育み、子どもたちを支える大切な役割を担っていることを改めて感じました。特に、「やらなければならない活動」から「参加したい活動」へと発想を転換することの重要性を学びました。学校と保護者が互いに支え合いながら、誰もが無理なく参加できる仕組みをつくるのが、これからのPTA活動には求められていると感じた、大変有意義な分科会でした。



第3分科会

【福祉】

PTA会長 **駒井夏美**



第3分科会【福祉】



発表校：兵庫県立のじぎく特別支援学校

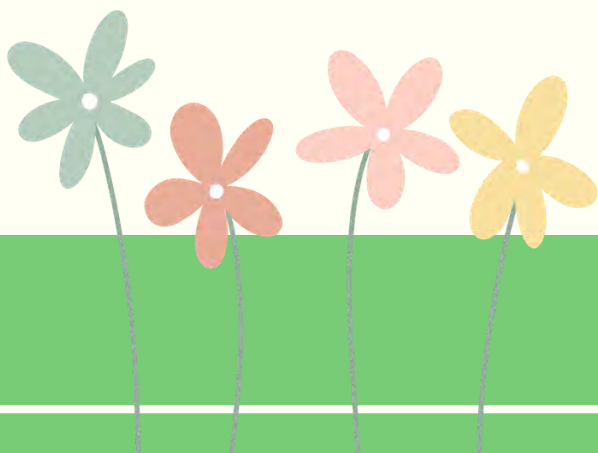
発表テーマ：「ウェルビーイングな社会に 一誰かが心地よく暮らせる社会を目指して―」

発表校PTAを通じて地域の書道ボランティアを学校に紹介し、授業の一環として書道体験を実施したことで、地域とのつながりや児童の興味・関心の広がり、教育活動の充実につながったとの発表がありました。また、地域行政との懇談会を通じ、福祉関係者との連携強化にも取り組んでいるとのことでした。

指導助言では、こども家庭庁支援局障害児支援課の縄田裕弘氏より、児童発達支援センターの役割・機能の強化をはじめ、障害児支援に関する最新の施策についてお話がありました。グループ討議では、九州地方の保護者や関東地方の教員と意見交換を行い、地域による福祉サービスや施策の格差の大きさを改めて感じました。東京都では、毎年行政への予算要望活動を行い、内容を精査しながら粘り強く声を上げ続けています。こうした活動も施策が進む一つの要因ではないかと感じます。一方で、自治体への要望活動を行っていないPTAもあることを知り、地域の課題を把握し、保護者の声を届けるP連・PTAの活動意義の大きさを改めて感じました。

また、より良い福祉サービスの充実に向けてPTAができることについても意見交換・発表を行いました。保護者自身が施策の動向を知り、それをもって地域の課題について声を上げることに加え、児童発達センターや医療的ケア児等コーディネーター・相談支援専門員など、旗振り役となる人の力を活用することも重要であると考えています。支援を「点」として捉えるのではなく、目の前の支援と将来を見据えた見通しを持ち、学校・福祉・行政等が方向性を共有しながら、その子どもや家庭に合った支援を重ねていくことが大切だとお伝えしました。

今回の大会全体を通して、「負担軽減」という言葉を多く耳にしました。私も働く母としてその大変さを理解する一方で、活動の中身や本来の意義を考え、必要なことと見直すべきことを判断することも大切だと感じました。私自身も、昨年度から引き続きPTAの役割や活動による成果を伝え、一人でも多くの方に活動の意義を知ってもらえるよう取り組んでいきたいと思います。



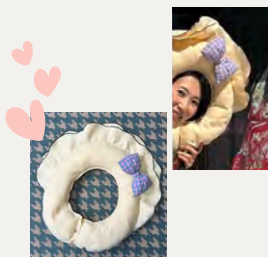
2026 全肢P連 8.20-21 広島大会の思い出



会場到着！



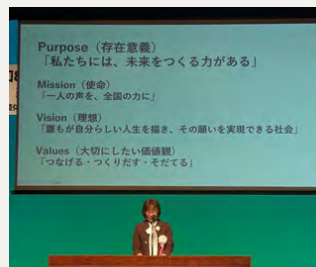
全体会・開閉会式の会場は
広島県民文化センター。
今年は全肢P連評議員のため
理事・評議委員会に参加後、
鈴木校長先生と合流！



今回は牡蠣の被り物。
昨年に続き、小学部3年河野さんによる力作！
リボンは取り外し可能という手の込み方。
本校文化祭のチェキコーナーにも登場します✨

私が何かかぶるのは、都肢会長や校長先生には
見慣れた光景...

開会式・基調講演



新しい全肢P連会長に、八王子
東特別支援学校の戸田会長が就
任。
全肢P連のビジョンを示すと共
にご挨拶されました。



「肢体不自由のある子供たちの
学びの充実」をテーマに、文部
科学省 菅野和彦氏による基調
講演が行われました。

分科会



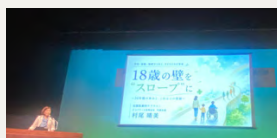
分科会・懇親会は会場を移し、
ホテルメルパルク広島へ。
6つのテーマに分かれて分科会
を実施。
全国各地の皆さまと議論が盛り
上がりました！

懇親会



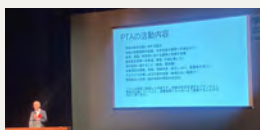
懇談会は数年ぶりの復活。全国の皆さんとの話も弾
み、前回大会以来の岡山県会長さんとも再会！
元小平の副校長先生とも記念写真。
現在、渡部校長先生は新宿養護、古山校長先生は大泉
特支でますますご活躍を続けていらっしゃいます◎

会員研修・講評・閉会式



「18歳の壁を“スロープ”に～学校・家
庭・地域で育てる“その子らしい暮らし”～」をテーマに、全国ケアライン
元代表 村尾 晴美氏による会員研修が
行われました。

全国特別教育推進連盟委員会 理事長 岩井
雄一様、全国特別支援学校肢体不自由教
育校長会会長 島添 聡先生より講評をい
ただき閉会式を行いました。



企業展示



各ブースも熱心にご覧になっていた校長先生。
私は分身ロボット「OriHime」とご挨拶。
パイロットは佐賀県から操作していたそうです！

次回は記念すべき70回大会！
開催地は佐賀県です。

次回の大会テーマは、

「さがサイコー！サガンドリーム！輝く未来を気球に乗せて 共に新時代へ！」
“サイコー”には、『最高』と『再構』という二つの意味が込められているそうです。

次回主幹校の校長先生によると、
佐賀県の方は「佐賀！」と言ったら、
ガッツポーズで
「サイコー！」と返るのが
定番なんだそうです😊

